

研究課題名	小児深頸部膿瘍形成感染症の疫学的動向解析と治療の標準化を目指すための後方視的多施設共同観察研究
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 感染管理室・小児科 氏名 長澤 正之
研究期間	臨床研究倫理審査委員会承認後 ～ 2024年10月
研究の意義・目的	2019年末から始まった新型コロナウイルス・パンデミックは4年間の長期間にわたり全世界の社会経済活動に多大な影響を与え、多数の死亡者を出し、世界的に大きな保健・健康上の問題となりました。その影響はそれ以前の感染症の動向・実態にも多くの影響を及ぼし侵襲性肺炎球菌感染症・侵襲性インフルエンザ桿菌感染症などがそれ以前に比べ6.7割減少したことが報告されています。社会活動の制限緩和などと相まって2023年になると回復の兆候がでてきました。日本の小児におけるRSウイルス感染症などの呼吸器ウイルス感染症も2020年には激減したが、2021年からは早くも流行は回復し、アデノウイルス感染症などは2023年には過去10年の中で最大の流行を示し、また2023-2024のインフルエンザの流行期間は例年の3カ月を大きく超え、6か月ほど流行が持続しました。2023年末ごろ今年度にかけて成人領域では、劇症型溶連菌感染症が激増しています。当院小児科で深頸部膿瘍形成感染症が増える傾向にあり、このことを多施設による後方視的観察研究により検証します。また、単施設では比較的症例の少ない深頸部膿瘍形成感染症の臨床症状や治療内容・経過を多施設の症例を集め、解析・検討し、本疾患の標準的治療の検討を行います。
研究の方法 (対象期間含む)	対象は2016年1月から2024年7月までに咽後膿瘍、扁桃周囲膿瘍、深頸部膿瘍と診断され入院加療を行った15歳以下の小児。診断は、CT検査（造影の有無は問わない）によって膿瘍形成を確認され「咽後膿瘍」「扁桃周囲膿瘍」あるいは「深頸部膿瘍」が確定されたものとしします。 診療カルテから●入院日・退院日●生年月日●性別●入院前抗菌薬投与の有無およびその種類●抗菌薬（静注・経口）の種類および投薬期間●CT検査の回数●穿刺・切開排膿の有無および回数●培養検査（血液培養・排膿液培養）の有無及び結果●咽頭溶連菌抗原検査/咽頭培養検査の有無および結果●入院時の血液検査データ（白血球数・好中球比率・CRP値・D-dimer）●急性期の緊急気道処置の有無●急性期のステロイド治療の有無とその内容、についての情報を集めて解析・検討を行います。
①試料・情報の利用目的及び利用方法（匿名加工する場合や他機関へ提供される場合はその方法含む） ②利用し、又は提供する試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称	①診療カルテから情報を集める後ろ向き調査観察研究です。当院を主研究施設とする多施設共同研究であり、以下の研究協力施設から同様の情報を集めて解析・検討を行います。各施設では個別に各施設で審査を受け、研究の妥当性について承認を得たうえで共同研究に参加します。予定共同研究参加施設は以下になります。 東京北医療センター・小児科 東京都立墨東病院・小児科 川口市立医療センター・小児科 草加市立病院小児科 東京ベイ浦安・市川医療センター・小児科 千葉市立海浜病院・小児科 土浦協同病院・小児科 ②調査項目:研究の方法の欄に記載された情報のみを扱います。 ③武蔵野赤十字病院 小児科:長澤正之、高橋周平、中川竜一 共同研究施設 分担研究者 ④武蔵野赤十字病院 小児科 長澤 正之
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 感染管理室・小児科 氏名 長澤 正之 TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525